

1. 基本精神・学校教育目標

私たちは、『地域の期待に応え、地域から信頼される学園』として、新しい時代に、『志と誇りを持って、いきいきと生きる人間』を育成します。

2. 学校像

礼節を重んずる進学校
 ◇学力を伸長する
 ◇豊かな人間性を育成する

3. 運営理念

輝く 生涯にわたって生きて働く力をつける
 ↑
 極める 探究し 特性を発揮する
 ↑
 徹する 集中し 磨く

□人格の陶冶 □高い志と誇り □自立・自己成長・社会貢献
 □学力の伸長 □豊かな情操と強固な意志 □健やかな身体・運動能力
 □知・徳・体のバランスのとれた教育 □基礎基本の徹底 □自律・礼節

4. 運営目標・評価項目・達成状況

運営目標	短期運営目標	本年度実行計画	評価指標	前年度	本年度		評価	運営目標の達成状況
				実績値	目標値	実績値		
学力の向上	・高い学力の育成 ・学力向上に向けた組織的・計画的な指導	・校内外の研修や教科会議(週1回)、授業研究(年6回以上)等を定期的実施することを通して、課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(「アクティブラーニング」)を重視した授業の内容を精査するとともに、生徒が能動的に活動する授業を確立する。	学習指導に関するアンケート	89%	90%	86%	4	授業研究を3回(国語・英会話・数学)実施した。主体的・対話的で深い学びを重視し、表現力、判断力、思考力を養うとともに、評価する授業に取り組み、生徒が能動的に臨む授業が増えた。模擬試験は、11月の実施分を中心に試験前の学習状況について細かく分析し、授業の工夫などに反映させることができた。週1回の中学校部会では、学力向上と授業改善について活発に意見交換し、目的や手段を共有することができた。学習指導の満足度は86%であった。
		・わからない箇所はその日のうちに理解させることを毎日の目標とする。授業の充実や、単元ごとの補充授業・個別指導を徹底する。	実施状況	90%	92%	92%	5	少人数を生かし、一人一人を丁寧に指導する授業を進めるとともに、数学と英語を中心に、早朝や放課後に個別の補習を組み、伸び悩んでいる生徒の指導にあたった。上位の生徒、下位の生徒とも模試の数値を伸ばすことができた。
		・授業規律の確立、基礎基本の徹底学習、学習方法の習得などを通じて学力の向上を図るとともに、自学自習の態度を養い、家庭学習の充実させる。	模擬試験偏差値	ベネッセ 49 育伸社 57%	ベネッセ 53 育伸社 65%	ベネッセ 49 育伸社 62%	4	ベネッセ3教科の平均偏差値は49で、昨年度よりやや上がった。育伸社5教科の偏差値50以上の割合の生徒は62%。英数国で毎日課題を出したが、試験前を除き、平日の学習時間は3年生は2時間以上であるが1・2年生は1時間を少し超える程度であり、目標としている2時間の確保に向けて、課題の質と量を検討し、宅習記録の徹底も図る必要がある。目標値には届かなかったが、前年度実績値を上回ることができた。
豊かな心の育成	・「7つの習慣」による豊かな人間性の育成 ・社会で力を発揮する役立つ人間力の育成 ・感動ある豊かな体験活動の充実	・特色あるリーダーシップ教育の一環として「7つの習慣」を継続実施し、挨拶、礼節等を基本においた心の育成を推進する。	学校全般に関するアンケート	89%	90%	97%	5	1年生で「7つの習慣」の授業を25時間実施した。さらに、全学年でチャレンジカップに参加することで、授業で学んだことを実践する機会を設け、3年間を通して7つの「習慣」に触れることができている。生徒の授業満足度は目標値を大きく上回ることができた。3年連続チャレンジカップのベスト8に選出された。
		・体験活動を生かした授業を構築し、総合的な学習の時間(探究学習)を充実させる。また、ネイティブ教員を専任で配置してコミュニケーション能力を養い、国際交流に積極的に参加し将来世界に羽ばたく生徒を育成する。	行事等に関するアンケート	90%	92%	90%	4	1年生は地域の企業の社会見学を通して、生徒の手による本校の魅力を発信するパンフレットを作成し、2年生は職場体験を通して、自己の進路を考えることをテーマに、3年生は英語のスピーチ発表と運動させてプレゼンを行った。プレゼンの技法だけでなく、自分で課題を発見し、調査して内容を充実させていくことが課題である。生徒の授業満足度は90%を超えることができた。
		・文化祭、体育祭等、その他伝統文化を通して感動し、心を豊かにさせる体験等を充実させる。 ・朝の読書や新聞を年間100回以上読む活動を通して、言語活動の充実を図る。	学校行事等に関するアンケート	90%	92%	97%	5	ええじゃんSANSAN・がり、尾道市音楽コンクールの合唱は、いずれも受賞を逃した。ええじゃんSANSAN・がりは、外部講師の指導を仰いで演技を改善し、生徒の自主的な取組みもあり、前年度に比べると躍動感のあるものとなった。合唱は、柔らかくきれいな歌声であると評価された。受賞を逃した原因としては、内面から湧き出る意欲を高めることである。学級経営とのかかわりを考えていきたい。
学校体制の充実	・信頼される学校づくり ・生徒募集の拡大 ・学校組織の機能化及び人材の育成	・「萌芽」「学級通信」を継続発行して保護者と連携を図る。「スタディライフ」「フォーサイト」を積極的に活用して個々の目標にしっかりと取り組むことで、学級目標、中学校目標、学校目標を達成する。	授業参観等参加率	80%	85%	85%	5	月に平均1回以上の行事や学級の様子などを保護者に発信した。特に1年生は定期的に発行することができたが、全体としては前年度実績値を大きく上回った。その反面、学校ホームページでの発信を試みることはできなかった。「7つの習慣」の授業については、通信で毎時間の内容と生徒の感想を伝えることができた。平均80%以上の保護者の参加があり、関心も高かった。
		・行事等があった時はHPをすぐに更新し、家庭、地域に本校の内容・存在感を広くアピールする。	実施状況	95%	96%	96%	5	体育祭、文化祭、修学旅行、しまなみサイクリング、合唱などの行事に加えて、女子バレー部や書道部、かるた部などの活躍もアピールすることができた。
		・指導体制や教育内容が充実し、生徒の生き生きとした活動を周知することを通して、教育方針・内容に共感し目的意識を持った新入生を2クラス確保する。	入学者数	22名	40名	24名	3	受験者数は、入試Ⅰが33名(専願19名・併願14名)、入試Ⅱが2名であった。最終的な入学者数は24名。受験者数は微増であり、入学者数は昨年度より2名増加した。入試Ⅰでの併願合格者の入学者は増加した。在校生の入学時から3年間の学力は伸ばしていることや、具体的な授業の取組みと成果をアピールし、受験者、入学者の増加につなげていきたい。